電気新聞　2023年2月27日号　9面掲載記事

MPX

日本の電力事業に即した市場リスク評価

MPX（東京都中央区、荒生元社長）は、市場リスク計量サービス「MPX RiskMetrics」を提供する。同社は、2016年1月から卸電力取引向けフォワードカーブを中核に、卸電力の取引判断に必要となる独自の分析情報を提供してきた。近年の市場のボラティリティー（変動性）の高まりを受け、昨年から日本特有の電力ビジネスモデルを反映させた市場リスク評価システムの販売に力を入れている。

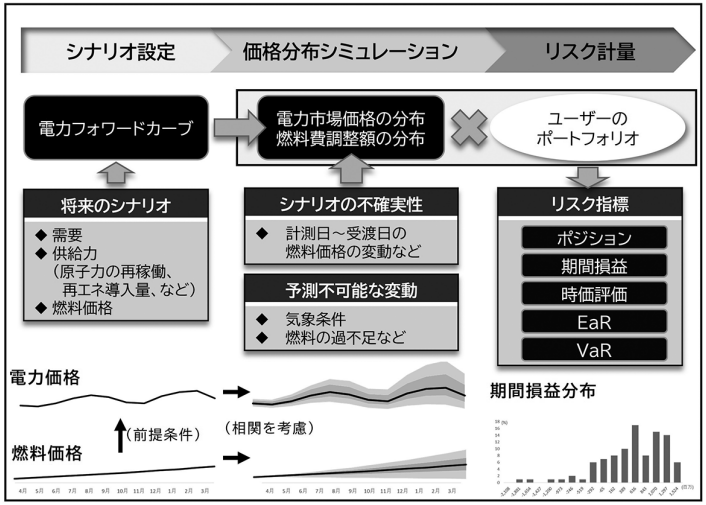
同サービスでは、予想される電力市場価格の分布を原子力発電所の再稼働スケジュールや燃料価格想定などの複数シナリオのもとに描き出すことが可能。気象条件や燃料の過不足により起こる価格スパイクや価格低下などの価格変動についても、確率モデルにより考慮する。サービス開始以来7年間で同社が蓄積してきた知見とデータを生かしたサービスといえる。

「MPX RiskMetrics」では燃料価格と電力市場価格の相関が取り入れられているため、従来の燃料費調整料金に加え、最近の市場価格連動型料金の適用といった小売販売側のリスクも把握できる。

取引の多様化が進む中であっても、調達単価と小売単価の変動の不一致を完全に解消することは難しい。エリア別、調達契約別、および小売プラン別に変動単価が異なる複雑なポートフォリオ全体の市場リスクを正確かつ瞬時に可視化する。ユーザーは市場リスクを常時モニタリングしつつ、市場の状況変化に呼応して取るべきリスクヘッジ戦略とその効果を定量化し、タイムリーな経営判断が可能となる。

オランダKYOS社の協力のもとSaaS（ソフトウエア・アズ・ア・サービス）として提供する同サービスは、短期間かつ低コストでの導入を実現。まずはポジション管理やEaR（Earning at Risk）の計量から利用を開始し、VaR（Value at Risk）の定期把握や通告変更契約などオプション性のある取引の価値評価などへ機能を拡張できる。

MPXは調達ポートフォリオが多様化する需要家へのリスク・ソリューションの提供も視野に入れ、電力産業の健全かつ持続可能な発展に貢献したいとする。



MPXが提供する市場リスク計量サービス